



孤独な鳥は  
やさしく  
うたう

孤独な鳥はやさしくうたう



目次

カバーオブジェ◆鈴木純郎

「月の目の天使」

本文写真◆田中真知

横谷 宣

装幀◆蔵前仁一

## 第1章 月夜のインコ 9

イスタンブールのデヴィッド・ボウイ 13

月夜のインコ 22

雲を描く人 29

十年目の写真 36

失われた足跡 46

キンシャサ！ 54

## 第2章 追いかけてバルセロナ 61

追いかけてバルセロナ 65

キッスはスイスで 90

## 第3章 孤独な鳥はやさしくうたう 121

サハラの子キン 98

ベネチアの花瓶、あるいは失われたパンツ 106

マダガスカルの長い夜 112

モンゴルの草原にて 125

ラダックの夏 132

アデルの卒業 140

いかれたやつ 147

アフリカの棘 156

夜行列車にて 164

孤独な鳥はやさしくうたう 168

第4章 星の王子の生まれたところ 173

星の王子の生まれたところ 177

マラケシュのラヴェル 189

バリ島奇譚 201

第5章 父はポルトガルへ行った 223

父はポルトガルへ行った 224

クマおじさんの贈り物 234

発掘する、ただしちよつとだけ 244

炎を見つめること 250

あとがき 258



第1章

月夜のインコ



モスクの床の中央で、ひとりの小柄な白人が倒立していた。インド服のような、ゆったりとした白い上下を着ている。足首や腰をしばってあるのか、裾がまくれることもなく、すっきりとした端正な姿勢で、そろえた両脚をドームの天井にむけてすらりと伸ばしていた。

なぜこんなトルコの辺境の町で、白人の、それも旅行者には見えないような男が、モスクの中でヨーガのようなことをしているのか。

## イスタンブールのデヴィッド・ボウイ

トルコを旅行中、カッパドキアから地中海へむかっていたとき、乗っていたバスが故障して、修理のために最寄りの町で降ろされた。建設中の集合住宅が丘の上に空しく並んでいるような味気ない新興の町だった。

暑い午後だった。初夏とは思えない激しい日ざしが、白熱した針の束となって地上に降り注いでいた。日陰をもとめて、そばにあった真新しいモスクを覗くと、思いがけない光景が目に入った。



イスタンブール1987